



※当センターは、フィリピン残留日本人の身元捜し、国籍確認、在日日系人支援等を目的として、2003年11月、弁護士、市民、企業によって設立されました。

日本大使館の公使・領事がパラワン、マニラで面接実施

——外務省第18次調査の一環として、離島の村を巡る道程に

リナパカン、クリオン、コロンの離島を訪問

5月2日から6日、外務省第18次調査の一環として、日本大使館の花田貴裕公使、山口基頼領事が、猪俣典弘代表とともにパラワンを訪れました。5月3日、エルニド港から3～4時間、荒れる海をものともせず大きな波の上をボートは進み、リナパカン島コライヤン村に到着。ここで85歳のマリア・ユハラさんと面談を行ない、続いて隣村にて86歳のパムフィラ・ユハラさん、79歳のエステル・ユハラさんを面接しました。ユハラ3きょうだいのうち、エステルさんはすでに就籍済みで、残り2人の国籍回復が急がれます。

続いて、サンニコラス村で85歳のエスペランサ・モリネさんと83歳のリディア・モリネさん姉妹への面接を実施。安全快適とはいえない竹製の彼らの家には電気もなく、近くには病院もないエリアで、定まった収入もない彼らの生活の苦しさを感じました。

翌4日、私たちは小舟に6時間揺られてクリオン島へ移動しました。クリオン町長である日系3世のバージニア・ナカチさんがディナーに招いてくれました。日本の親族との友好な関係を築いているナカチファミリーの豊かな暮らしぶりを目の当たりにして、パラワンのすべての残留者たちが同じく夢をかなえられるようにと願わず



サンニコラス村のリディア・モリネさん（左端）の自宅にて。中央が花田公使

にはいられませんでした。

翌5日、町長がプライベートボートを提供してくれたので、私たちはわずか35分でコロン島に到着しました。私の叔父で

あるサムエル・アカヒジが住むボラック村に移動する道中、彼の父が殺害されたと言われる場所を通りました。父親を渴望し心に空白を抱えながらも、サムエル叔父は、私の父であるノボルとともに戦後を生き延びました。私はいつの日か、祖父の祖国である日本へ行き、親族に会いたいと願っていたところ、2023年12月にPNLSCや日比両政府のおかげでその夢が実現し、私は叔父のサムエルに付き添って沖縄の親族を訪問し、温かな歓迎を受けたのでした。アカヒジファミリーから日本大使館への感謝の手紙が4世によって読み上げられました。

その後、私たちはコロン町に戻り、2019年に就籍した川上ホセフィナさんを訪問。続いて町長を表敬訪問しディナーを共にしてパラワンの旅を終えました。（パラワン日系人会 ミチコ オルミド シュミッド）



サムエル・アカヒジさん宅。サムエルさんは右から3人目（帽子の男性）。姪のミチコさんは猪俣代表の右

新たに名乗り出てきた残留者をマニラで面接

5月27日、マニラ大使館にて、花田公使、山口領事、牧野秀樹領事による5名の2世の面接が実施されました。ジョスエ・シム・ズニエガ弁護士、猪俣代表そしてマニラ日比のステファン・ブニ会長も同席、4名は対面での面接、1名に対してはオンラインにて実施しました。

1人目は、81歳になるテレシタ・ニッタさん。彼女は1998年の全国調査の際に登録していた古くからの





オンライン面接となった日本在住のテレシタ・ニッタさん

メンバーでしたが、その後しばらく日系人会から離れていました。最近になって連絡がつき、今回の調査対象者となりました。娘と一緒に日本に暮らしているためオンラインによる面接を

実施、近々就籍申立を予定しています。

続いて、対面での面接が始まりました。娘に付き添われて現れた81歳のホセ・タケイさんは2004年にPNLSCによるインタビューを受けて調査により父親の戸籍が判明していましたが、当時はまだ就籍プロジェクトが始まっておらず、そのまま音信不通になってしまっていました。20年以上が経過し、3世とSNSで繋がることができて、国籍回復支援の準備がスタートします。「すでに81歳になり、日本国籍を取得するという望みはほぼ失いかけていましたが、再び機会が与えられ、望みが再燃しています。まだ元気なうちに父の国を訪れ、かなうものならば日本のきょうだいに会いたい。この世界を去る前に、自分のルーツを明らかにし、本当の自分として認められることを切に願っています」(ホセさん)

次は、カビテ在住のアントニオ・デンダさん(80歳)。彼は最近、ネットでPNLSCの調査のことを知りオフィスに訪ねてきました。子ども時代に日本人の父とフィリピン人の母とともに日本に渡航しており、12歳の時に母と一緒にフィリピンに戻ってきたといいます。父の名字「デンダ」を名乗りつつ、日本人の子どもである事実は隠していましたが、彼は日本人の父との何枚もの写真や思い出を持っており、現在就籍許可申立て中です。「面接前は何を聞かれるのかと神経質になっていましたが、とても丁寧な対応をしていただき、気持ちよく自信をもってあらゆる質問に答えることができました。日本国籍の回復に向けてよい結果を期待しています。みなさん、本当にありがとう」(アントニオさん)

マニラ在住のマリアコラソン・ナガイさん(81歳)は娘に付き添われて大使館へやってきました。彼女もまた、最近登録した2世です。PNLSCの情報を知った娘のルスさんが、訪日の際にPNLSCの東京事務所を訪問、フィリピン帰国後も連絡を取り合い、マリアコラソンさんの就籍許可申立てを行ないました。「領事から面接してもらえたことを本当に嬉しく思っています。また、この機会に同様の状況にあるほかの2世とお会いできたことにも喜びを感じています。面接の雰

囲気は終始明るく、日本人は親切で、私たちの昔話に喜んで耳を傾けてくれました。日本が私たちを救済しようと急いでくれているのを感じます。自分が日本人の子であることに躊躇はありません。信じられないほどの幸せと感謝に満たされています。(マリアコラソンさん)

最後は1人で大使館に来たセチョ・カナシロさん(79歳)です。まだ若くて元気なセチョさんは2021年に新たに登録された2世で、その年のPNLSC事務所での面接が予定されていましたが、突然連絡がつかなくなりました。その後、2023年9月の外務省面接で対象になりつつもやはり連絡が取れませんでした。彼が持つタブレットが唯一の連絡ツールのため、彼との連絡はやや困難でしたが、今回は手紙を郵送したところ、幸いにも連絡がついて面接実施の運びとなりました。

「今回、PNLSCから領事面接への招待状が届いたとき、本当に嬉しかった。就籍のことを忘れていたが、心の奥底では、日本人になり元気なうちに日本の親せきに会いに行きたいという思いが今もある。PNLSC、私のことを忘れずにいて就籍許可申立を支えてくれてありがとう。素晴らしい経験と機会をありがとう」(セチョさん)

この面談は彼らが日本人の父を持ち、自らも日本人であることを示す一助になります。大使館が発行する総領事報告書は、家裁での就籍許可申立の際の補足資料となるでしょう。国籍回復を待たずに老いて亡くなる2世も大勢います。家裁のプロセスを加速させるためにも外務省のサポートは大きな助けになるでしょう。外務省と大使館が最後の1人までご支援くださることを願います。
"夢の実現の前に横たわる障害に屈してはならない"
(エミー/ジェン)



公使・領事やマニラ日比フニ会長らとともに(写真上から反時計回りに)ホセ・タケイさんと娘/アントニオ・デンダさんと娘/マリアコラソン・ナガイさんと娘/セチョ・カナシロさん



フィリピン日系人会 44 周年記念総会に参加して

ダバオの日系人の現状も含めての報告

——大野 俊 (PNLSC 理事、京都大学東南アジア地域研究研究所連携教授)

ダバオ周辺の日系人でつくるフィリピン日系人会（英語略称・PNJK、会員 9,000 人余り）の創立 44 周年記念の総会が 5 月 12 日、同会が経営するフィリピン日系人会国際学校（ダバオ市ラナン地区）の校庭で開かれました。日系二世の調査などのために現地に滞在していた私もお招きを受け、総会に参加しました。そこでの様子や関係者からうかがった PNJK のいまを、ここでお伝えします。



記念撮影に収まる総会参加者

PNJK の総会は新型コロナウイルスが世界中に広がった 2020 年から 2022 年までは中止。2023 年になってやっと再開されました。今回は久しぶりの本格的な会合ということで、PNJK のメンバーである二世から四世までの日系人を中心に約 230 人が参加しました。このうち二世の参加は十数名でした。コロナ禍の前の PNJK の総会には二世は 30 名ぐらいが参加したとのことで、今回の参加はその約半分になりました。太平洋戦争前から戦中にかけて生まれた二世の年齢は 80 代から 90 代。近年、お亡くなりになる二世が相次ぎ、PNJK の調べでは、ご存命の方は 80 名以下に減りました。今回の総会に参加したくても、体調からその希望がかなわなかった方も多いようです。

近年、ダバオ地域の二世の間では、日本国籍を取得した方が増えました。今回の会場には、PNLSC の支援によって、2006 年以降、最近までに日本の家庭裁判所で「就籍」が認められて日本国籍になった 98 名の二世たちの顔写真をならべたパネルが、「DAVAO SHUSEKI APPROVED」との英語タイトルで展示されました。太平洋戦争中の戦死や日本への強制送還で日本人の父親を失ったあと、あいまいな状態が続いた多くの二世の国籍問題が、時間を要しながらも決着に向かいつつあることを実感させるものでした。総会では、最近、日本の親族と対面した二世の参加者が紹介され、



沖縄県の親族訪問が実現し祝福される二世の金城ロサさん

他の参加者たちから拍手で祝福される場面もありました。

総会には、石川義久・駐ダバオ日本総領事も来賓として招かれました。石川さんはスピーチの中で「日系人の問題は最優先課題として取り組んでいる」と言明しました。そして、2 年前のダバオ赴任以来、自身がミンダナオ島の各地で面談して作成した、国籍未取得の二世に関する総領事報告書が家庭裁判所に提出され、彼らの就籍許可に向けて活用されていることなどを報告しました。私は新聞記者時代の 1986 年以来、数えきれないほどダバオ、バギオ等を訪問して日系人社会の動向を見守ってきましたが、石川さんほど日系人に親身に寄り添って活動する日本の外交官を見たことがありません。

総会の最後には、110 年の歴史がある日本の唱歌「故郷（ふるさと）」と、世界中で歌われる童謡「小さな世界」の日本語楽曲が会場に流れました。これだけ日本を意識した大勢の老若男女が集まる空間はフィリピンでもここにしかありません。そのことを、改めて痛感しました。フィリピン日系人会連合会会長でもあるイネス・マリヤリ PNJK 理事長（日系三世）が総会での挨拶で「私たちの日系人アイデンティティをお祝いしよう」と呼びかける場面もありました。

イネス理事長やアントニナ・エスコビリア会長（日系二世）は「新日系人も同じ日系人だし、支援しないといけない」などと私との個別面談で述べ、戦後の日比カップルの子供たちである「新日系人」の教育面などの支援も今後、PNJK の活動に付け加える方針を示しました。今回の総会で会場になったフィリピン日系人会国際学校（幼稚園から高校までで計約 1,400 人在籍）には、旧日系人（戦前・戦中の日本人移民の末裔）とともに新日系人の児童・生徒が多数在籍している事情もあります。

日系三世の多くが今も日本で就労するなか、ダバオ在住の日系人の人口の中心は四世・五世に移りつつあります。PNJK の活動や、ダバオ地域で万単位とみられる日系人たちのアイデンティティや生活はどうなっていくのか、これからも見守っていききたいと思います。



挨拶する石川義久総領事



ホセアバドサントスでワークショップ開催！

住民の半数以上が日系人の村に太陽光発電を

クラファン
開始！

参加者
募集

2023年にパラワン日系人会設立とともに実施した簡易太陽光発電装置「リッターオブライト」のワークショップ。その後、地元のシグピット村に165本の装置をどけて、地域の新たなエネルギー源として活用してもらうなど、日系人社会への支援が地域コミュニティに波及していきました。

同様の取り組みをミンダナオ島でも実施したいというダバオの日系人会（PNJK）からの提案もあり、今年9月にミンダナオ島南端にあるホセアバドサントス町にて簡易太陽光発電装置のワークショップを開催することにいたしました。ホセアバドサントス町は日系人の多い地域で、中でも、今回ワークショップを実施する予定のエリアは住民の6～8割が日系人のルーツを持っていると言われています。一方で、いまだに水道も電気も通っておらず、基本的な社会インフラが整備されることなく取り残されてきた地域でもあります。今回は、この電気にアクセスできない1500世帯が暮らす地域にて、組立ワークショップを実施し、各世帯に簡易太陽光発電装置を配布、さらには地元の大学生やボランティアとともに設置後のモニタリングまで行なう予定です。

日系人が多く暮らす地域を実際に訪れ、残留日本人コミュニティの戦後の暮らしの厳しさの現実などを見ていただき、さらには地域支援を通して人と人との関わりも大切にしつつ、相互理解を深めていきたいと考えています。地域の家庭にホームステイさせていただき、日常生活も経験します。好奇心と体力に溢れる方、特に若いみなさんの参加を期待しています！



写真は2023年1月にパラワン日系人会を通じて地元シグピット村で組立を行なった簡易太陽光発電装置「リッターオブライト」



<実施概要>

期間：2024年9月12日～16日（4泊5日）

集合場所：ダバオ空港（解散も同場所）

活動場所：ミンダナオ島南部ホセアバドサントス町

活動内容：150世帯が暮らす地域（住民の6～8割が日系人）にて、簡易太陽光発電の組立ワークショップ、各世帯への配布、翌日のモニタリング訪問（現地学生ボランティアと）

参加条件：18歳以上で体力に自信のある方

宿泊：ホテル（ダバオ市内）一泊、残りは地元家庭にてホームステイ（薄い寝袋持参）

環境：トイレと簡易の水シャワー

食事：受入れ先にて提供

募集人数：5名（体力に自信のある方、自分で健康管理できる方）※現地集合が不安な方は、日本人スタッフと日本から一緒に渡航することも可能です。

同行スタッフ：PNLSC日本人スタッフ2名、PNJKスタッフ1名、現地NGOスタッフ3名

参加費用：15,000～20,000円（予定）

参加費用に含まれるもの：渡航前オリエンテーション参加費、プロジェクト参加費（活動中の飲料水、食費）、プロジェクト参加中の移動費

参加費用に含まれないもの：ダバオ空港までの航空運賃、海外旅行保険、プロジェクト開始前や終了後の経費
※詳細はお気軽にPNLSCにお問合せください。

(info@pnlsc.com/ ☎ 03-6709-8151 担当：田母神)

<併せてワークショップ実現のためのクラウドファンディングも実施します！>

目標額は80万円を予定しています。集まったファンダは、ワークショップ開催費、資材購入運搬費に使わせていただきます。詳細は、近日PNLSC公式サイト及びCAMPFIREにて告知いたします。みなさまのご支援をお願い申し上げます。



オンライン

エッセイコンテスト授賞イベントとしてワークショップを開催します！

日系人の歴史と経験に学び、平和とよりよい未来を考える

PNLSC20周年を記念して昨年実施した「フィリピン日系人エッセイコンテスト」は3部門で34人から応募があり、大人部門5名、ユース部門6名、子ども部門3名が入賞しました。エッセイのテーマは「日系人としての私の人生」。入賞作のみならずどの作品にも、日系人として背負っているものや記憶、アイデンティティをめぐる問いや葛藤、そして“今”が見事に表現されていました。

このたび受賞式を兼ね、受賞者を含む在日在比の日系人とともに、フィリピン日系人の歴史を学び、交流するワークショップを開催します。映像を見た後、小グループに分かれ、日系人の経験を聞き、残留日本人を生んだ日比の歴史、平和、未来について考えます。参加希望者は事前に右のQRコードからPeatixにてチケットをお

申し込み（無料）ください。のちほど、参加用のURLをメールでお送りします。

オンラインワークショップ概要

日時：2024年8月24日（土）日本時間14時～17時
フィリピン時間13時～16時

参加費：無料／申込締め切り：8月20日

内容：受賞者発表&紹介/ショートムービー/グループワークショップ/各グループからの報告/講師

事前申し込み：Peatixより（以下QRコードより）



みなさまの支えのおかげです

認定NPO法人の更新が無事に認められました

PNLSCは2019年から認定NPO法人となり、今年はその初めての更新の年でした（5年ごと更新）。昨年、東京都に更新を申請し、4月に都の現地確認調査を経て、6月27日付で更新が認められました。これからも、当所への寄付（賛助会員・学生会員・日系人会員の会費を含む）は税制上の優遇措置の対象となります。パブリックサポートテスト（幅広い市民から支援を受けているか

の基準）をクリアできたのは皆さまの支えのおかげです。今後もいっそう適正な法人運営に努め、フィリピンの日系人会と連携しながら、フィリピン残留日系人の国籍問題の解決、フィリピン日系人社会の持続的発展への側面支援、日系人の歴史を伝え、学び合いを通じて平和と日比友好を広げる活動に取り組んでいく所存です。引き続きのご支援、そして活動へのご参加をお願いいたします。

上川外務大臣がフィリピン残留2世救済に向けた支援に言及

国籍回復や一時帰国に向けた支援の加速へ

6月28日、上川陽子外務大臣が記者会見で「戦後79年が経つ今も残留者が無国籍で取り残されている状況について問われ、「希望する方々の一日も早い国籍回復や一時帰国に向けた支援を進める必要があると認識している」との意向を示しました。外務省による調査の拡充も含めた積極的な支援を進めていきたいと語り、7月にはフィリピン訪問を予定していることから、

外務省のさらなる取り組みが期待されます。



諦めるたびによき報せが届き、今の幸せがある

祖 母のフェリシアナ サルバシオンが、ミサミスオリエンタル州のキノギタン開発会社で運行管理者として働いていた祖父のアサイチ タナカに会い、恋に落ちたときに彼らの物語が始まりました。1939年に彼らは結婚し、1941年9月6日、私の父マヌエル ショウジが生まれました。彼はたった1人の子どもでした。なぜなら父が生まれて2カ月後、祖父はマニラで投獄され、そこで亡くなったからです。戦時下に、祖母フェリシアナは2カ月の赤ん坊と取り残されました。彼女は生き延びて自力で父を育てました。父マヌエルは、母オルフィオサと結婚し、5人の子どもをもうけました。

私が結婚してダバオデルノルテ州で農家としてシンプルな暮らしを送っていたとき、隣人がフィリピン日系人会の情報を教えてくれました。私たちは、かつて祖父の婚姻証明書が準備できずに日本への渡航準備に失敗したことがあったので躊躇しましたが、今回も挑戦してみようと私を説得したのは夫でした。彼は、最後に運はこちらに味方すると言いました。

2000年、私たちはフィリピン日系人会へ行くことを決断しました。日本に行くことは長年の夢でしたが、経済的にも苦しく、書類探しは困難を極めました。ついに私は日本に行くという夢を忘れました。

しかし3年後、フィリピン日系人会から祖父の戸籍が判明したと知らせる電話がきました。必要な書類を提出したのは2006年2月でした。不幸にも夫のビザは却下され、同年5月31日、私は1人で日本に行きました。長年の夢とはいえ、夫と3人の子どもを置いて1人で旅に出たという事実が私の心を砕きました。大変厳しい生活でしたが、家族を日本に連れてくるために必死に働きました。ついに末っ子と夫、私は日本の永住権を得て、長女とその夫や子供も、長期滞在の資格を得ました。

2020年、パンデミックのため空港が止まり、第二子が日本に戻ってこられなくなりました。彼のビザは、フィリピンにいる間に失効してしまいました。私たちは彼を観光ビザで呼び寄せて入国管理局に行き、さらに弁護士にも助言を求めましたが、ビザの再取得は叶いませんでした。彼は4世で、すでに26歳になっていました。

2023年7月、フィリピン日系人会のヘレン エスコ

ビリヤさんから連絡があり、父の就籍許可申立を提案されました。父の日本国籍が回復すれば、4世が3世に格上げされ、彼らも長期滞在のビザを取得できるようになります。私は嬉しさを感じる一方驚きました。すでに日本の入管で無理だと言われて希望を失っていたからです。息子も、日本社会は自分の人生にとってよい場所ではないと考え、フィリピンに留まる運命を受け入れました。

しかし、私たちが困難に遭遇したときはいつも、神さまが誰かを遣わしてくださいました。父はヘレンさんからの提案に賛成し、私たちはすぐに必要な書類を集めました。私たちは辛抱強く待ち、2024年3月13日、ヘレンさんから父の就籍が許可されたという報せが届きました。家族全員がとても喜び感謝しました。私たちは皆、ここ日本で暮らし、働くことができるのです。

私はいま、三重県松阪市の製造会社で工場労働者として働いています。出荷前に製品をチェックする仕事で、少し退屈ですが、今の仕事を愛しています。会社は給料をよく支払ってくれますし、私たち労働者に多くの利益が与えられています。

私は日本での暮らしを愛しています。健康保険に加入していれば政府が医療費を補助してくれるヘルスケアのシステムも整備され、教育システムも素晴らしいです。日本は若年代への質の高い教育を重視しています。私が住む街は、とても安全で平和です。また、日本の人々は非常に礼儀正しく素直です。日本食のおいしさにも驚かされました。

今回の申立を支援してくれた金裕介弁護士、PNLSCスタッフに心から感謝します。今、私の息子や甥、姪たちは、日本の旅の次の段階を待っています。皆、わくわくしており幸せです。私も現在は2人の子どもと義理の息子、孫たちとともに日本で暮らしています。私には安定した仕事があり、私たちは快適な生活を送っています。フィリピン日系人会の揺るぎない支援に改めて感謝します。



中央が著者。左から2人目が2世で父の田中マヌエルショウジ



浜松での国際交流が繋いだフィリピンとのご縁

みなさま、初めまして。NPO 法人フィリピンナガイサの松本義一と申します。この度はみなさまにメッセージをお伝えできる機会を頂けて大変光栄です。私は現在、静岡県浜松市にて主にフィリピンの人々を対象に生活や教育についてのサポートをしております。私がフィリピンと関わるようになったきっかけや、PNLSC の会員になったきっかけ、現在の活動についてご紹介させていただきます。

フィリピンと関わるようになったきっかけ

私が初めてフィリピンの人々と接することになったのは、日本語教師のボランティア活動を始めた 2007 年でした。当時は今以上に、浜松市で外国人と言えば「ブラジル人」をイメージする人が多かった時代ですが、その中で徐々にフィリピン人の数も増加していました。そこで浜松国際交流協会が、フィリピン人を対象とした日本語教室を開催しようとしていたところ、ご縁があってその教室で日本語コーディネーターを務めたことがフィリピンと関わるようになったきっかけです。そこで現在私が所属しているフィリピンナガイサとも出会いました。

この日本語教室は大人の生徒を想定していましたが、教室にはフィリピンから呼び寄せられた児童生徒や青年も参加していました。しかしながら、当時はフィリピンの子供たちに対してどのようなサポートが必要なのか、周りに聞いても誰もわからない、という状況でした。そこで、実際にフィリピンに行ってフィリピンの社会や教育、人々の生活などを学びたいと思い、2009 年からダバオ市にあるフィリピン日系人会国際学校（以下、PNJK IS）のハイスクール部門で、日本語教育コンサルタントとして働き始めました。2011 年までの約 2 年間の在籍でしたが、たくさんの友人や上司・同僚、生

徒に恵まれ、多くのことを学ばせていただきました。現在でも彼らとの交流は続いています。

PNLSC の会員になった経緯

PNJK IS で働き始める前までは「日系フィリピン人」について知らないことばかりでした。学校での勤務が始まってから、徐々に日系フィリピン人の歴史や就籍活動などについて知ることができました。学校関係者や受け持った生徒の中にも日系人の方がたくさんいました。彼らから話を聞いたり、ミンタルでの慰霊祭に参加したり、カリナンの歴史資料館の見学をしたりすることで、フィリピン残留日本人が戦争の結果、戸籍がないため事実上の無国籍状態となっているという現状を知りました。

帰国後、私も日系人の皆さんのために何かできることがないかと考えていたところ、フィリピンナガイサの活動の縁で PNLSC さんからニュースレターを送っていただくことがあり、そこで会員になることができました。

現在の活動

フィリピンから帰国後の 2012 年に、当時の中心メンバーと一緒に、任意団体であったフィリピンナガイサを NPO 法人化しました。現在は、「在住フィリピン人の自立と多文化共生社会の実現」を目的とし、「在住フィリピン人と日本社会を繋げること」を理念として活動して

います。具体的には、地域社会への「窓口、居場所、出口」を紹介・提供できるよう事業を実施しています。



ナガイサHP

フィリピンナガイサ会員のおよそ半数が日系フィリピン人です。中には PNJK IS のジュニアハイスクールを卒業後、来日し、私たちの教室で日本の高校進学に向けて勉強する生徒もいます。現在の活動の中でも日系フィリピン人の皆さんとの縁が続いていることに、日々喜びを感じています。



(写真上) 2009年PNJK ISで日本語教師 その当時の生徒とは現在も交流が続いています(筆者前列中央) / (写真下) 2023年クリスマス会でのフィリピンナガイサスタッフ集合写真(筆者後列右)



PNLSC 活動報告 (2024.04.05-2024.07.04)

04/05	青山大人議員、堂込麻紀子議員訪問(猪俣)	05/13	猪俣、ダバオとホセアバドサン トス訪問、PNJKとミーティング	06/11	来所:沖縄平和協力センター本 田路晴さん
04/11	英莉アルフィア議員訪問(石 井、田母神)	05/16	来所:(株)グロップ取締役楠戸 正人さん他2名	06/12	来所:NHK桑原さん
04/15	来所:毎日新聞古川幸奈さん	05/18	マニラ日比ブニ会長とサントト マス大学ワークショップ(猪俣)	06/13	来所:大野理事
04/22	来所:テレビ朝日浦本さん、松 本さん	05/22	パラワン訪問(猪俣)	06/14	事務局会議
04/24	東京都による認定NPO更新現 地確認	05/23	来所:大久保由里さん、北田依利 さん	06/18	来所:梅村みずほ参議院議員
04/25	猪俣フィリピン出張(~6/11)	05/27	来所:ICAN副代表 龍田成人さん	06/20	ファミリーサーチ訪問(田近)
04/26	UNHCRマニラとミーティング (DOJ、LCR協議会も同席)(猪 俣、ズニエガ)	05/27	来所:マニラ日本大使館で総領事面 接(猪俣)	06/24	来所:NHKラジオ西垣さん
	来所:藤寄政子さん(スリーエー ネットワーク)	05/31	UNHCR駐日事務所及びフィリ ピン事務所とzoom会議	06/25	来所:NHK桑原さん
05/02	猪俣パラワンへ(総領事面接)	06/04	来所:フィリピン社会福祉開発省 職員3名	06/26	猪俣沖縄出張(沖縄平和祈念財 団松川理事、沖縄ダバオ会上原 会長面会)
				06/27	認定NPO法人更新決定
				07/03	事務局弁護士会議
				07/04	来所:沖縄県立図書館原さん他 2名

ご支援に感謝いたします (敬称略・順不同・2024.04.05-2024.06.30)

《新入会》

団体正会員:(株)グロップ

個人賛助会員:一ノ瀬渉子、龍田成人

日系人会員:デンダ レイラ ディマイリグ

《会員更新》

団体賛助会員:(有)津島工業

個人正会員:伊藤英男、近藤洋/知子、

個人賛助会員:伊藤昌子、紫垣麻由子、竹 嶋克之、吉村邦雄、明石英次、嶋田久夫、落 合直之、佐々木真理子、鳥海典子、田中和 成、松崎孝、米野みちよ、玉井嗣久、沖本直 子、伊吹忠之、青木澄夫、伊藤達己、桑原義

人、大島由香子

日系人会員:ミヤギマチコ、アフリカノ ルイサ ハタツブ、ピアン ノエル フジシ マ、ノレト サバンタ シライシ、アルビオール エフレン Jr、神崎リパティエーグレイス、シ ストサ エメリタ、ミワレルマ、ミワジョー イ、フランコアナマリー、金城ビンセント、 ミワ レイ、ヤマナカ エドガー フェラレ ン、スホト ラモン アントニオ ナパロ ジュニア、パヒラガオ エピファニオ、ボラ ル アナミチ、ゴンザレス ドルマル アン ジェリタ、ヤワカ レイムンド パオン、ヌ ルド レイナルド カタオカ、金城トニコ、

金城ベルナルド、タグチ アイダ、タグチ マヌエル

寄付:ばかぼん、明石英次、嶋田久夫、 志田多果夫、日下元及、日野陽江/成人、 鈴木美智子、山田浩史、吉田綾子、鍵和 田美津子、田中和成、藤寄政子、米野み ちよ、パヒラガオ エピファニオ、木場 爽子、下東邦子、伊吹忠之、龍田成人、 佐々木悦子、福井学、小野恭子、石井教 夫、板坂純義

書籍寄贈:高畑幸、(株)スリーエーネット ワーク、岡田泰平

物品寄付:板坂純義

*認定 NPO への合計 3,000 円以上の寄付、個人・団体賛助会員、学生、日系人会員の会費は寄付控除、法人税優遇の対象となります。(但し、正会員会費と各種入会金は控除の対象外)

事務局だより

コロナ禍も明けて、簡易太陽光発電の現地ワークショップ開催やエッセイ コンテスト授賞式など、さまざまなイベントも増えてきました。現地での ワークショップには、ぜひ若者たちに参加していただき、世代交代しつつ ある日系人社会と新たなつながりを構築してほしいと願っています。

さて、PNLSCもカーボンフリー、ペーパーレスの推進に取り組 むべく、ニュースレターの送付について、ご了承いただける 方には、PDFデータ送信に切り替えています。紙の郵送は不 要という方、ぜひご一報ください。また最近のニュースのバッ クナンバーはHP上でも読めますのでぜひご利用ください。



マニラ事務所便り

来年実現させたい国際的イベントのために、 無国籍 2 世の健康確認を行なっています。彼 らのほとんどは 80代ですが、“忘れられない 瞬間”が訪れることを楽しみにしています。 同時に連絡が取れない 2 世の消息調査も続け ています。手遅れになる前に神さまが助けて くださいますように。でも、前向きに考えて いきましょう。支援を必要とする日系人がい たらお知らせください。(エミー&ジェン)

ご入会・ご寄付のお願い

■正会員

(団体)	入会金	30,000 円
	年会費	24,000 円
(個人)	入会金	10,000 円
	年会費	12,000 円

■賛助会員

(団体)	入会金	10,000 円
	年会費	12,000 円
(個人)	入会金	1,000 円
	年会費	6,000 円

■学生会員

入会金	なし
年会費	3,000 円

■日系人会員

入会金	なし
年会費	3,000 円

■銀行口座

みずほ銀行 四谷支店
普通 1985293
ゆうちょ銀行 〇一九支店
当座 00130-6-333599

*名義はいずれも「フィリピンニッ ケイジンリーガルサポートセンター」

発行

認定 NPO 法人

フィリピン日系人リーガルサポートセンター (Philippines Nikkei-jin Legal Support Center)

代表理事: 河合弘之 Hiroyuki KAWAI
猪俣典弘 Norihiro INOMATA
事務局長: 石井恭子 Kyoko ISHII

〒160-0004
東京都新宿区四谷 1-7 装美ビル 602
TEL:03-6709-8151 FAX:03-6709-8152
E-mail:info@pnlsc.com URL:http://www.pnlsc.com

